

第28回Tシャツアート展

今年も約2万8000人がひらひらの風景を満喫しました。



町内の小学4年生小野陽羽さんの作品「足あと」。審査員・鍵井さんのコメントより:このアート展は、「足あと」のように、身近な大切なものを、さりげなく再確認させてくれる空間なんだなと感心しました。

砂浜大賞「足あと」の他にも、町内の小学4年生の作品がたくさん入賞しました。



5月1日から6日まで、入野の浜で「Tシャツアート展」が開催されました。

平成元年に始まった砂浜美術館のTシャツアート展は、全国から募集した作品(絵、写真、書など)をオーガニックコットンTシャツに印刷し、砂浜に杭を立てて展示。町内外から約2万8000人が来場しました。

今年も38都道府県のほか、海外8カ国から合計1022枚の応募がありました。一般応募作品のほか、ひらひらフレンドシップの、富山市、北海道新冠町、気仙沼市からの作品や町内小学4年生、町内外の施設やグループ、出店のお店やさんなどからの応募もあり、今年も砂浜をTシャツがなびく光景が広がりました。

また、今回は「海でつながるTシャツアート展」を特別に企画。町内の小学生とケニアの小学生が描いた海の絵、審査員の水中写真家・鍵井靖章さんによる世界の海の写真など、海をテーマにしたTシャツが、ケニアの砂浜でもひらひらします。

そのほか、今年もJICA四国とのコラボ企画があり、中南米ブ

ラジル、パラグアイ、ボリビアへもTシャツが旅する予定です。黒潮町の風景と世界の風景が、Tシャツアート展を通して繋がります。そんな全国、世界からの応募作品のなか、今年の砂浜大賞に選ばれたのは、町内の小学4年生、小野陽羽さんの作品「足あと」でした。

砂浜を楽しむ6日間

期間中は、会場周辺に町内外の特産品などのお店や移住相談コーナーが並び、日替わりのイベントでは恒例のビーチサン飛ばし大会やひらひらステージ、駅からのウォーキングツアーなども開催。観光客も地元の方も、一緒になって楽しんだ6日間でした。



高知市や大阪、遠くからは秋田など県内外から集まったボランティアの皆さん。9日間で「あいの里に蜷川」に泊まり、イベントを支えてくれました。